

## 2020年度 第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

### Q1：第3四半期の営業利益に含まれる一過性要因があれば教えて欲しい

A1：前年度の第2四半期に欧州の資金流出事案による33億円の損失があるため、対前期との比較ではこれが一過性の要因になっている。為替影響としては、トルコのリラ安がプラスサイドに効いている。また、第1四半期、第2四半期において、休業が各国で発生した際の補助金が第3四半期に含まれている。それ以外ではSUVの増産が利益に大きく貢献している。固定費では、移動制限や海外出張等、コロナ対応によりできなかった活動分がある。

### Q2：利益予想が前年実績と比べてあまり変わらない中で配当だけ見ると落ちている様に見える。

配当の考え方を教えて欲しい。

A2：配当性向30%以上を維持する方針で取組んでいる。利益予想が前年の水準に近づきつつあるが、まだコロナの影響、半導体不足の影響が見えてない。ここを見極めた上で、期末に判断をさせて頂きたい。

### Q3：地域別で見た場合の利益の一過性要因を教えて欲しい。

A3：日本地域は、SUV、MPVなど車種構成が良くなっている。アジア・オセアニア地域は、IMVの台数がかかなり伸びており、これがかかなり押し上げている。米州地域は、SUVが第2四半期との対比では少し減少しているものの、前年比では増加している。補助金のうち、6割強がカナダに入っている。

### Q4：日本地域は100億円を超える利益を第3四半期のみで計上しているが、今後もこの数字が望めるのか。

A4：第4四半期に確定する固定資産税が全体を下げる要因になる。

### Q5：今後のモデルチェンジなどで、車種構成が御社にとって大きく悪化方向に行く可能性はあるか。

A5：来期に向けては現状の構成が維持できると考えている。日本地域において、MPVは前期に比べて大幅な増産になっており、この時期のモデルとしては非常に売れている。今後もこのレベルが維持できるのか、少し注意してみていく必要がある。車種の構成に加えて、足元では車種内のグレード構成も大変良くなっている。8月に出たヤリスクロスは、弊社のワンモーター6WAYシートを採用したグレードが全体の7割弱ある。中国地域では、カムリの革仕様も非常に多い。

**Q 6 : 短期的な戻りがかなり強いが、前倒しでやらなければならない開発や投資はあるか。**

A 6 : 開発については 2025 中期経営計画から大きく変わることはないと思っている。

活動量が増える見通の為、来期に向けては開発効率を上げることが大変重要になってくる。今年は様々な効率化、働き方の改革を行い、その効果が足元で出ている。来期に向けても、活動量は増やして行きながら、費用は効率化した状態を維持することを考えている。本当にゼロベースで必要な仕事は積み上げて、効率的に固定費を使っていくことをやっていきたい。投資に関しても考え方に大きな変更はない。

以 上